

平成25年度(2013 年度) 第1回吹田市子ども・子育て支援審議会会議録(要旨)

開催日	平成25年8月29日(木)	開催時刻	午後6時30分～8時30分
場 所	吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館 4階多目的会議室		
出席者	泉会長、峯本副会長、御前委員、渡邊委員、田中委員、香川委員、粉川委員、上農委員、山口委員、武内委員、植田委員、井村委員、松下委員、長瀬委員、長谷川委員		
事務局	春藤部長、上原理事、増山次長、藤本室長、熱田室長、岸参事、秋山参事、田辺所長、西村課長、山本参事、黒木参事、笹川参事、脇谷課長、道場課長代理、杉原主幹、和泉主査、古田主査、		
傍聴者	一般 30人 市議会議員 1人		
案 件	1 子ども・子育て支援事業計画について 2 ニーズ調査について 3 その他		
泉会長	ただいまから、第1回吹田市子ども・子育て支援審議会を開催します。傍聴希望の方は、いらっしゃいますか。		
事務局	はい、30名の方が傍聴を希望されています。事務局から提案ですが、座席はありますので、全員の方に入らせていただければよろしいでしょうか。		
泉会長	委員の皆様、よろしいですか。		
各委員	異議なし。		
泉会長	どうぞ、入ってもらってください。 (傍聴希望者入場)		
泉会長	それでは、議事に入ります。案件「1 子ども・子育て支援事業計画について」事務局から説明をお願いします。		
事務局	(資料1、資料2を説明)		
泉会長	基本指針、子ども・子育て支援事業計画について、事務局から説明がありました。ご意見、ご質問はありませんか。		
委員	就学前の子どもは、どれくらいいるのですか。		
事務局	本市の就学前児童数は、今年4月1日現在で20,027人です。保育所の入所者数は、私立保育所に約3,000人、公立保育所に約2,000人です。幼稚園については、私立幼稚園に約5,000人、公立幼稚園に約1,000人が入園しています。		
委員	基本指針の冒頭に「子どもの最善の利益」を考えて計画を策定するとあります。今の課題について、吹田市としてどう捉えていますか。		
事務局	次世代育成支援行動計画(後期計画)における保育所定員の目標は、今年12月に千里丘北に私立保育所が開設すれば、達成することになります。しかしながら、計画策定時点で見込めなかった他市からの流入人口等があり、目標を達成しても待機児童の解消とはならない見込みです。市として重要な課題と考えておりますので、早期に解消してまいりたいと考えています。		
委員	この審議会に出席するにあたり、国の基本指針に目を通してきました。「子どもの最善の利益」や「質の高い保育・教育」という言葉が繰り返し出てきます。「質の高い」とは具体的には何なのかは明確にはなっていません。その中で、吹田市が独自に取り組む課題は何な		

のか。基本指針には、既存の保育所、幼稚園が認定こども園になることを推進しているような記載が見受けられます。

また、社会的擁護に関する施策については、どうお考えですか。

事務局

認定こども園は、幼稚園と保育所のいいところをミックスしたもの、だと考えています。本市では、先進的に全国のモデルとなるようなものを、ソフト面でもハード面でもつくっていきたいと考えています。

また、社会的弱者に対する施策は、他市より劣っているとは考えていません。いかなる制度変更があったとしても、守っていかなければならないと考えています。

委員

就学前から小学校への接続の問題が重要とされていますが、吹田市は、大阪府内で学力面で特に劣っているとは言われていないし、幼稚園から小学校、保育園から小学校の接続もそれぞれが努力されていて、今のままで特に問題はない。新たにこども園を作る意味がよく分からない。こども園にすることによって、子どもの育ちの面の課題的なものが解消されるのですか。

事務局

幼稚園と保育所は長年分かれてきましたが、それは子どもの視点からではなく、親の就労状況から分かれてきたのではないかと考えます。幼稚園の保護者の多くは、長時間保育を希望されています。将来ビジョンでは、すべての保育所を認定こども園にするかのような誤解を与えたかもしれませんが、必ずしもそうではありません。

子どもの育ちの課題の解消というのは難しいことですが、発達障がいの子どもが増えている、アレルギーを持つ子どもが増えている、という今日的課題には取り組んでいかななくてはならないと考えています。

委員

国などの説明を聞いていると、子ども目線で考えれば、質の高い保育が受けられるのであれば、保育所、幼稚園、こども園、どちらでも良いのではないかと思います。

委員

いいところ取りをしようとするのだから、新しい取り組みは悪いことではないと思います。プラスになるから取り組むのだし、選択の幅が広がるのはよいことだと思います。

委員

課題を浮き彫りにするためにニーズ調査を実施するのでは。これから調査することなので、課題の解消について議論するのは、時期尚早だと思います。

泉会長

幼稚園側から何かご意見はありますか。

委員

社会変化というか、働き方の変化があって、「保育に欠ける」という言葉の定義が難しくなっています。このことに柔軟に対応していこうというもの、と考えています。

泉会長

なぜ、今、子ども・子育て支援事業計画を作らなければならないかについて、ご理解いただければよいと思います。

時間をとりましたので、次の案件に進みます。案件「2 ニーズ調査について」事務局から説明のほうをお願いします。

事務局

(資料3、資料4を説明)

委員

ニーズ調査票案の中で必須とあるのは必須の項目ということ、削除可能というのは削除しても差し支えないということですね、では、何も書いていないものはどう考えたらいいのですか。

事務局

必須とありますのは、「量の見込み」を出すうえで必要な項目、削除可能とあるのは、大阪府の判断で、必ずしも必要ではないと考えられた項目ということです。そのどちらでもないものについては、確認して、次回の審議会でお答えします。

委員

想定回収率が60%となっていますが、回収率がかなり低い場合はどうするのですか。

委員	60%の根拠は何ですか。
事務局	次世代育成支援行動計画策定時に実施したニーズ調査の回収率は、前期が約50%、後期はやや減少して45%でした。60%というのはやや期待を込めた数値ではありますが、後期計画策定時には45%であってもニーズ推計に有効でしたので、45%ぐらいの回収率であれば問題ないと考えています。
泉会長	ニーズ調査については、次回の審議会で確定しないといけないとの説明でしたね。
事務局	アンケートの配布数については、予算上の制約があり、増やすというのはご容赦いただきたい。調査項目の内容については、次回の審議会で決めたいと考えています。はじめての計画になりますし、内容については、概ね国、府が示した案に沿っていきたいと考えています。ただし、設問数は、今回の雛形が最大の設問数と考えています。
委員	就学前児童が20,000人ですね。アンケートは対象者の抽出方法が問題になってくると思いますが、住民票などからの無作為抽出になるのですか。設問数を見ていると保育所に預けて働いている方は、忙しくて回答してもらえないのではないのでしょうか。幼稚園の保護者のほうが少しは時間があるとは思いますが、私は、子育て広場で在宅で子育てするお母さんたちと接していますが、その人たちでも回答は難しいのではないかと思います。
泉会長	確かにこのアンケート案を見ていると、設問数が多くて果たして最後まで答えていただけるのか、文字はもう少し大きくないと答えてもらえないのではないかと心配になります。それに「放課後児童クラブ」という言葉は吹田市では使っていないので、言葉の修正が必要ですね。
委員	かがみ文だけでも吹田の独自性を出して、このような硬い文面ではなく、あなたの意見を子ども達の施策に反映しますというような表現にしていきたい。
委員	留守家庭児童育成室については、実際利用している人に聞かないと、1年～3年まで利用していない人に今後の利用希望を聞いても、利用したいという答えはほとんど返ってこないと思われます。就学後の設問内容を見ていると、子どもの生活実態について、朝ごはんのことを聞いている項目があり、そういうことを聞きたいのであれば、まんべんなく抽出する必要はあると思いますが、それが目的なのかどうか。別途、高学年の学童保育の利用については、今、利用している人に聞いて欲しい。基本指針の中に学年が上がればニーズは少なくなると書かれていますが、障がい児に関して言えばニーズは高く、私たちの調査では100人にもなる。私たちの持つ数値も示したい。
事務局	アンケート調査をするにあたって、市が作為的にすることには問題があります。障がいがあっても障がい児保育制度を利用しないで、就労の要件で預けている方もあり、プライバシーの問題もあります。
委員	地域差の問題はどうしますか。南山田のように学校自体が過大校となり待機のでる地域と、定員に空きがある学校では違ってきます。地域差の分析はするのですか
事務局	具体的にはまだ検討していません。可能かどうかも含めて検討します。配布の時に配慮するのがいいか、分析のときに配慮するのがいいのか。
委員	アンケート用紙の回収は誰がするのですか？
事務局	調査専門の会社に委託する予定をしています。 まだ、市としての意思決定はされていない段階であることをお断りしたうえで、先ほどの留守家庭児童育成室事業について、4年生以降の障がい児利用のモデル事業を実施していきたいという考えはあります。

委員	公立保育園の保護者の集まりで、このニーズ調査とは別にアンケートに取り組んでいきたいと話合っています。世帯の意見ではなく、父にも母にも聞いて、どんな保育園が望ましいかを聞きたいと思っています。アンケートの結果を提供したいと思っています。
泉会長 事務局	<p>それでは、最後の案件「3 その他」について、事務局からお願いします。 (資料5を説明)</p> <p>次回の審議会につきましては、9月30日(月)の午後6時30分から、今回と同じこの場所で開催したいと存じます。</p>
委員 事務局 泉会長	<p>日程調整は1か月前でなく、なるべく早くできれば3か月先ぐらい先までを示して欲しい。 なるべく早い時期にお示しいたします。</p> <p>他にご意見がないようでしたら、これで本日の会議を終了します。委員の皆様お疲れさまでした。</p>